

ZOOおびひろ

おびひろ動物園協会会誌 2010年5月号（平成22年度第1号：電子メール版）



「ピリカ」の代わりに、円山動物園から新しく仲間になった「イコロ」「キロル」の双子です。（共にみ）（2010年3月撮影、おびひろ動物園柚原係長提供）

☆ 会長辞任のご挨拶 ☆

平成11年4月より今年4月まで会長を務めてまいりましたが、個人的な事情と協会の最大の懸案事項であった協会の基金の活用に、

「動物園センター」を寄贈することで一区切りがつきましたので、この度、辞任させていただきました。私の身勝手な申し出にも関わらず、これまで私を支えていただきました営事務局長が会長職を引き継いでいただくこと

になりました。私は、これから一会員としてボランティアガイド活動を通して協会の活動の一助を担って行きたいと思います。

菅新会長挨拶

おびひろ動物園協会 会長 菅 雅史



この度、山田前会長の後を継ぎ会長となりました菅と申します。紙面を借りまして、一言ご挨拶申し上げます。

山田前会長には、永年にわたっておびひろ動物園協会の発展にご尽力頂きましたが、この度、永年の課題でありました動物園センターの建設、帯広市への寄付完了を機会に退任したいとの申し出があり、会長の交代ということになりました。この間の山田前会長のご奮闘、ご努力に心よりお礼申し上げます。

おびひろ動物園は、今年はホッキョクグマの人気か、ゴールデンウィーク中の入場者数も好調なようです。

人は人生において、最低3回動物園と縁があるといえます。

- 1回目は、子供の頃に親に連れられて行く。
- 2回目は、自分が親になり、子供を連れて行く。
- 3回目は、おじいちゃんおばあちゃんになり、孫を連れて行く。それに、おびひろ動物園協会の会員となり、動物園のお手伝いをする1回を加えて頂ければ幸いです。

おびひろ動物園は、昭和38年7月に道内2番目の動物園として開園しました。最近は、旭山動物園、円山動物園、釧路動物園と比べて、ちょっと話題性に欠け陰が薄い気もしますが、おびひろ動物園には子供たちが自転車でも行ける動物園、動物とふれあえる動物園という重要な要素があります。

これら要素を更に高めることにより、他の動物園とは違った意味での魅力ある動物園づくりができると思うところであり、おびひろ動物園協会がそのお手伝いができたら幸いと

これまで私に頂戴いたしましたご協力・ご支援に倍するご支援を菅新会長に賜りますようお願い申し上げます。 山田純三 思います。

山田前会長に比べれば微力ではありますが、精一杯会長としておびひろ動物園協会の更なる発展のため努力して参りたいと思いますので、会員の皆様のご協力、ご支援をお願い申し上げます。

園長就任1年を振り返って



おびひろ動物園 園長 藤川 研

早いもので園長就任後1年がたちました。皆様の温かいご支援、ご協力のおかげで、何とか大過なく過ごすことができました。心より御礼申し上げます。

昨年度を振り返りますと、何とんでも、おびひろ動物園の入園者数が、20年ぶりに15万人(冬期を含め総入場者数は、156,683人で、平成2年度以降過去最多)を突破したことです。長年の悲願だっただけに、職員一同、大変喜んでおります。

入園者が増えた要因はいろいろ考えられますが、おびひろ動物園協会さんが取り組まれたボランティアガイドの養成・実施をはじめ、多くのボランティアの方々の活動が大きく寄与されていることは間違いなく、関係の皆様には心から感謝している次第です。

今年の開園の4月29日から、協会さんに建てていただいた「動物園センター」が、オープンしております。ボランティア活動の拠点として、展示・研修室として、さらには、入園者のサービス施設としての機能を完備した、想像していた以上にすばらしい施設をご寄贈していただきまして本当にありがとうございました。今後、十二分に活用させていただくとともに、末永く大切にに使わせていただきたいと思います。あわせて、昭和38年の開園当時から使用していた正門も改修されたこ

とにより、正門付近はイメージが一新されたように感じられるのではないのでしょうか。

また、動物の目玉は、道内4動物園間の大移動の結果、札幌市円山動物園からやって来たホッキョクグマの双子の兄弟、イコロとキワルです。取っ組み合ったり、じゃれあったりする姿を

ご覧いただき、楽しんでいただければと思っています。

イメージチェンジしたおびひろ動物園に、ぜひ、お越しください。動物園職員および動物一同、皆様のご来園を心からお待ちしております。



念願だった協会の活動拠点（動物園センター）が出来上がりました！

協会をこれまで支えていただいた先輩会員の方々の善意を、このような形で残すことが出来ましたことをご報告いたします。先輩会員が会費や各種活動を通じて蓄積して来られた浄財（約2500万円）を活用させていただき、帯広市に寄贈いたしました。活動拠点と申しましても、本センターは動物園の施設として各種行事などに多目的に活用される施設ですので、私どもも動物園支援団体の一つとして使用希望時においてお願いして借用させていただくことになります。研修室は協会の理事会や総会のみならず、ボランティアガイドの研修会・講習会などにも活用できますし、ボランティアルームはボランティアガイドの打ち合わせ・休憩などにも利用できますので、活動拠点と位置付けることが出来るでしょう。本センターを活用して私どもの協会の活動がより活性化されることが期待されます。なお、本事業は清水副会長の格別のご尽力と大西前園長ならびに現藤川園長のご理解とご支援により実現に至ったものです。関係者に心から感謝申し上げます。

建物は木造平屋 147mm²で、正面のエントランスから入った内部に展示・研修スペース（右奥）、ボランティアルームおよび物品庫（左奥）、授乳室（左手前）、多目的トイレ（右手前）、外側の両サイドに来園者用のトイレを備えています。ご来園時にどうぞご覧ください。

☆平成 22 年度総会報告☆

平成 22 年 4 月 12 日に理事会、引き続き 4 月 27 日に総会を開催されましたので、総会の概要をご案内いたします。

平成 21 年度事業報告

4 月 17 日 理事会

4 月 25 日 総会

4 月 26 日 動物園清掃奉仕活動中止

5 月 11 日 市民提案型協働のまちづくり書類提出

5 月 25 日 Zoo おびひろ 5 月号発刊、通年入園券送付

7 月 31 日 (VG) ポスター出来上がり、市内各施設に掲示

8 月 19 日 動物園スタッフとGV養成講座のこと

で初めて話合いを持つ

8月23日 Zoo おびひろ 8月号、電子メール版配信

8月25日 Zoo おびひろ 8月号、印刷版発送

8月30日 ボランティアガイド (VG) 養成講座実施:
とかちプラザ 16名申込、14名受講

9月6日 VG 実地研修実施 講師: 柚原係長

10月4日 VG 第1回打合わせ会 とかちプラザ

10月10日~12日 VG 試行 述べ30名参加

10月18日 VG 試行の反省会と意見交換会

10月19日 帯広市医師会で協会の活動を講演

11月3日 VG 試行を実施

1月30日 VG 試行を実施

2月20日 動物園センター着工 (4月15日竣工)

2月20日 植村直己展の会場係を担当する

3月2日 市民提案型協働のまちづくり報告書提出

3月4~7日 ふじまる9階で市民協働のまちづくり

事業の活動状況のポスター展示

3月7日 市民協働のまちづくり報告会で報告

3月26日 動物園センターの寄贈目録を市長へ提出

平成21年度収支決算書

不掲載 (会員各位へは別文書で郵送されます。)

会計監査報告

平成21年度の会計監査結果を下記のとおり報告します。

記

- 1 監査事項 平成21年度会計に係る関係書類等を照合し預金通帳残高を監査した。
- 2 監査結果 平成21年度会計に係る関係書類並びに収支決算書の係数に相違がなく、いずれも符合し正確であることを認める。

以上のとおり、監査の結果を報告いたします。

平成22年 4月12日

監事 高橋 久道 (印章略)

平成22年度収支算書

不掲載 (会員各位へは別文書で郵送されます。)

平成22年度事業計画

- ① ボランティアガイドの実施
- ② ボランティアガイド養成講座の開催
- ③ 会員拡大に取り組む (会員全員にカレンダーを配布し、お願いする)
- ④ 会員の動物園行事への積極的な参加をお願いする。

⑤ 「おびひろ動物園の飼育動物のデジタル写真コンテスト」を実施する。良い作品に賞を出し、カレンダーに使う

⑥ ホームページの維持管理とカレンダーの作成

⑦ 「Zoo おびひろ」の発行 (年2回)

平成22年度 おびひろ動物園協会役員

会長: 菅 雅史 (事務局長兼務)、

副会長: 清水茂彰

理事: 島部 優、東野 貢、藤本 雪雄、山田 純三

監事: 高橋 久道

会員状況

個人会員: 37名 (個人名略)、

団体会員: 15団体

協賛会員: 8団体などと1個人。

以上が、総会で承認されましたことをご報告いたします。



動物園の現場からの メッセージ

おびひろ動物園

飼育展示係長

柚原 和敏

昭和60年から動物園で勤務しています。その間、3年間は動物園から離れていましたが、すでに20年以上に渡って動物達と接しています。

最近、全国の動物園は注目され、メディアにも多く取上げられ、動物園に足を運ばれる方も増加の傾向です。入園者の方も以前とは違って動物を良く観察してくれますし、動物紹介の看板も熱心に読まれている姿が見受けられます。

おびひろ動物園もゆるやかに進化してきています。動物達が快適に過ごせるような工夫、動物に興味ある方々にはスポットガイドやブログを通じて積極的に交流するような場が増えてきました。今後ともよろしくご支援をお願いします。

劇的な変化は乏しいですが、市民に親しまれ、「また、おびひろ動物園に行ってみよう！」そんな気持ち

ちになってもらえるような動物園を造っていきたいです。今後ともよろしくお願いいたします。

雪の中で行われた平成 22 年度動物園開園式



この雪の中でのテープカットが山田会長の最後の仕事でした。この正門は、動物園センターと一緒に市の予算で新築されたものです。(H22-4-28)

編集後記

平成 19 年に、「Zoo おびひろ」を復刊いたしました
が、これまで本号で5回お送りすることになります。

この「Zoo おびひろ」が協会と会員の皆様を繋ぐ機
関誌として、今後、継続・発展されることをお祈り
いたします。(H22-5-15 山田純三記)